
すべりこみアウト！

漂流者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

すべりこみアウト！

【Nコード】

N5408E

【作者名】

漂流者

【あらすじ】

人生いろんな意味でアウトな男の七転八倒物語。人の不幸は蜜の味って本当なんだね。

一夜

今しがたバイトをクビになっちまった。近所のコンビニだ。

電車代も無えから近所で働いてやってんのによ……しつかし、近所から来てる奴をクビにするか？あのバカ店長、俺より年下のくせに偉そうにクビ切りやがって。予告くらいするのが普通だろ………。まったく明日からどうやって暮らせっていうんだよ……。

しまった！いきなりクビ切られたから弁当パクリそこねた。やべえ腹減った。財布、財布、うーん……。１７円しかねえか。知ってたけど一応確認してみた。

くっそーなんでクビになったんだ？いつも弁当持って帰ってたのがばれたか？でも飯食わねえと死ぬからなあ。分かっても見逃せよ、そん位当然だろ。

「いらつしやいませ！」って元気に挨拶しねえのがまずかったか？んでも女の客にはこれ以上ないって位笑顔で挨拶してたはずだぜ。野郎に挨拶なんかしても意味ねえしな。挨拶が原因ではないはず。

後なんだろエロ本のシール剥がしてカウンターで読んだのが良くなかったか。いや、あれはどっちかつと売り上げに貢献したはず。考えてみるよ、中身の解んねえエロ本なんて誰が買うよ。表紙で面白そうだと思っても騙されるのが嫌な奴はやっぱり買わねえんだよ。だがまあ袋とじまで開けちまったのはやりすぎだったかもな。立ち読みしかしない俺にはよくわかんがエロ本をシールで閉じるのは間違ってるよな絶対。

他には煙草か・・・在庫から1カートン借りただけだからばれるにしても、まだ先の話だよなあ。給料もらったらこっそり返すつもりだったがもう無理だな。バカ店長がクビにすつから返せなくなっちゃった不可抗力、これは俺のせいじゃない。

店長の野郎、「なぜクビになったのか自分で考えて下さい！」って言うてたが全部許容範囲じゃねえか。心の狭い奴だぜまったくよ。

にしても腹減ったな。100円ハンバーガーでいいから食いたいぜ・・・・・・そうだ！明日近所のマックに面接に行ってみよう。この間100円玉握りしめてハンバーガー買いに行った時に可愛い娘がいたんだよ。あの時、ドキュンと心臓を打ち抜かれたのに忘れてたぜ馬鹿馬鹿、俺の馬鹿。

いやなんかワクワクしてきた。マックって確か古くなった商品は捨てるんだよな。捨てる物をいただいても文句は出ねえから今の俺にはまさに天職！

YES！！明日は快晴。

二夜

ウザイうざいウザイ……どうして店長って人種はこうもウザイ奴ばっかなんだろうね。

早速マックで働いてみたんだが店長がうるせえのなんのって「発音は正しく！」だの「お辞儀は丁寧に！」だのと俺はわざとやってんの。女の客に対する俺の豹変ぶりをちゃんと見てんのかね。注文してない商品まで勧めて買わせてやってんのによ。このバカ店長！野郎なんてどうでもいいじゃねえか。あいつら店の対応なんて何ひとつ気にしちやいねつつうの。店の対応より女子店員が可愛いかどうか位だろ野郎が気にするのは。

可愛い店員といえば俺の心臓を射抜いた彼女が出勤してきた。なんと間際の悪い事に俺が店長に怒鳴られている時に、だ。従って彼女の俺に対する第一印象は最悪。できない、さえないバイト君が入ってきたって思われたよな。怨むぜバカ店長。

彼女と一緒に注文カウンターに立ってみた。メチャクチャ可愛い！間違いないこの店のナンバーワン看板娘だ。それに制服姿がなんともエロい、おそらくサイズが合ってないんだろうな。彼女だけスカートがマイクロミニになってるぜ。

なまめかしい太ももの誘惑に負けた俺は意を決して、お腹が痛いフリをする。もちろんマイクロミニの中を覗く為にだ。痛たたた……と腹を押さえてかがみこみ彼女を見上げてみる。……おいおい見透かされちゃってるよ。彼女、両手でスカート押さえちゃってるもの。最悪、どころじゃねえな。これで俺はエロキモでない君として彼女からさげすまれる事が決定した。まあ弁解の余

地は無いから仕方ない。

とりあえず約束の時間まで働いてはみたものの、バカ店長に働く姿勢がなっていないなどのたまわれ、すっかりやる気を失った俺は採用を辞退する事にした。つうか、辞めさせる気満々だもの。あの店長。

帰り際にポリバケツを開けて商品が捨てられていないか確認してみたが、残念ながら一つも捨てられてなかった。おかしいな？と思い店長に尋ねてみたが「頼むから帰ってくれ。」の一言。なんだよ、そこまで邪険にする事ないだろ。眉間にしわ寄せちゃって、高血圧で死ぬタイプだな、ありゃ。

思惑どおりにはいかなかったが、とりあえずビッグマックを二つばかり手にいれる事ができた。というか危うく餓死するところだったぜ！手癖が悪いのが今日ばかりは役に立ったな。しかし、これからどうしたもんかな？・・・なんにも思いつかない。財布の中身は相変わらず１７円だしな。

あゝあ、それにしても・・・パンツ見たかったな・・・。

三夜

ドンドンドン！ドンドンドン！

うわあゝ朝からうるせえ、誰か来やがった。誰だろ？コンビニの店長か？それとも大家か？どっちにしてもいい知らせじゃないのは確かだから居留守だ。なんか怖えゝし。俺は居ませんよゝあきらめて帰って下さい。

ガタゴトガン！

郵便受けに何か入れてった。乱暴な奴だなゝもつとやさしく入れてけよ、怖いじゃねえかよ。行つたか？もう行つたよな？そゝとドアを開けてみた。良かった、誰もいない。どれどれ、ブチ切れ気味に何を入れていったのかな？ありやりや、不動産屋から家賃の催促だ。至急連絡しろ、だと・・・・・・・・。二ヶ月滞納してるからな。そろそろ来るだろうと予測はしていたが何て言い訳しようかな？「無職なので払えません。」なんて言ったら般若のような顔して怒るだろうな、あのくそばあ。コンビニの給料日はまだ先だし、昨日働いた分なんて更に先だ。というかそれまで生きてゆけるかさえ分らない。もつと困つた事に携帯はとつくに止められていて、17円しかないので電話がかけられない・・・・・・・・。

仕方ない・・・・・・・・最後の切り札を切る時が来たようだ。ジャァーン！俺の愛機「プレイステーション2！」・・・・何？3じゃないのかつて・・・・・・・・バカ野郎、俺にそんな高価な買い物ができる訳ないだろ。とにかくこれ売って急場をしのがなくては！なんとというか焼け石に水のような気もするが、中古ゲームショップにゴーゴゴー！

やってきました。全国チエーンのカメレオン倶楽部、買取を待つ間テレビゲームの市場調査にいそしむ。おお！シヨッカー全滅大作戦が安くなってる。やりたかったなあ。パチンコゲームだけど、なんて指をくわえてる内に査定が終了。唯一所持していたエヴァンゲリオンのパチンコゲームも買い取ってもらって7300円になった。少しほっとしたらぐうぐうと腹の虫が鳴り出したので早速、食料調達へゴー！

アパートを出る前から何を食うか考えていたが、スーパーに入っていざ買い物をする段階になると迷いに迷ってしまっとうしようもない。食いたい物は山のようにあるが、どうも値段に見合わないような気がしてならない。何も買わずにスーパーを出て、外食を決行する事にした。すき屋の牛丼セット大盛り！うわあ贅沢！と思う俺はかなり落ちぶれてしまっているのだろうか？

久しぶりに満足した俺は書店やらなんやらを散歩してから99シヨップで厳選食材をゲット！お腹がいっぱいだとなぜか迷いもなし、神のごときチヨイス。フリーの求人誌も手にいれてアパートに帰った。

愛機は失ってしまったが今日は安らかに眠れるなと意気揚々と帰ってきた。鍵を開けようとポケットに手をつ込むが、あれ・・・鍵がない！ええ！嘘だろ！ま・さ・か・・・内鍵しちゃった？

うわあ〜ん、どうしよう・・・続く！

四夜

無い無い！どこを探しても、買物袋の中身をひっくり返しても、玄関先にも、家の周りにもどこにも無い！間違いないう・ち・か・ぎ、だ。今どき内鍵ができるタイプの玄関ドアなんて滅多にお目にかかれないよ、その理由がこれ、内鍵トラブル。いつか、やりそうだなあゝって思っていたがこんな時にやっちゃうなんて馬鹿馬鹿、俺の馬鹿！

ふう、一息ついてトイレの窓、キッチンの窓、部屋の窓を確認してみたが全部鍵がかかっている。当然だ、戸締りして出かけたんだからな。あゝあ、トイレの窓くらいは開けとけよ。どうせ盗られるものなんてなんにもないんだから・・・・・・。

ハア・・・・・・困った。とりあえず公衆電話のタウンページで鍵屋を探して電話をかけてみる。先に金をこさえておいて助かったぜ、無一文だと電話もかけられないからな。大体の値段を尋ねてみた・・・・・・た、高えええええ！てか、俺の所持金じゃ足りない。

鍵屋に頼むのはあきらめて公園のベンチに腰を降ろす。さて、どうしたものか？分かりきってる。選択肢はひとつしかない。不動産屋に頭を下げてスペアキーを貸してもらう、それしかない。ただし、家賃滞納の件をうまくいって言い逃れなければならぬ。ああああゝ何て言おう、これで三度目の滞納だからなあ、過去に使った変な言い訳はもはや通用しないだろうから今回はキツチリと考えないとクソババアになんて言われるかわかったもんじゃない。

とりあえず言い訳を考えながら不動産屋へ向かった。なぜなら不動産屋の営業時間が間もなく終了してしまうからだ。一応、営業時

間内にたどり着いた。が、明かりは灯っておらず、あきらかに閉ま
ってるっぽい。外から中をうかがえる造りにはなっていないので、
ノックしてみたが返事はない。おいおい業務怠慢だな、ろくな物件
扱ってないから客がいねえのは分かるが営業時間くらいは守ってく
れよ。いやいやこれで今日は野宿決定だ。言い訳を考える時間が出
来たのは嬉しいが、外で寝なきゃならないのはつらい……。トボトボと野営場所を求めて歩き出す。

最近の公園のベンチって横になれない設計してんだな。ベンチの
真ん中にしきりが付いてて、それが背中当たって痛い痛い。なん
て事しやがる、行政出て来い！文句言ってやる。あ、でもこれはこ
れでツボが刺激されてちよつといいかも……。な訳はない、
やっぱ痛い。横になるのはあきらめて求人誌に目を通す。あ！交通
量調査の募集が載ってる。24時間で2万円！これは是非応募せね
ばならない。なんてったって日払いだし、体力の落ちてる俺にはも
ってこいの仕事だ。ただし、募集が締め切られていなければの話だ
が……。

結局朝まで三冊の求人誌を隅から隅まで読みつくして、良さげな
求人をつくつかピックアップしておいた。交通量調査以外で即金な
のが短期コールセンター受付、終了日払いというやつだ。これは女
子オンリーの募集っぽいが一応、応募してみる事にする。なんせ体
力系の仕事は今の俺には無理、ブツ倒れちまうのがオチだ。

不動産屋の営業時間になったのでスペアキーを借りに行く。もう
嘘の言い訳などしない、洗いざらい昨日までの出来事を話す。そう
しないとあのクソババアには通用しないからだ。仕事から俺みたい
な連中を大勢相手にしてきたんだろうな。とにかく質問が鋭く、薄
っぺらい嘘など簡単に見破られてしまうのだ。過去2回はそれでし
どももどろになって逃げるように帰ってきた覚えがある。

「あら、お久しぶり。」不動産屋のクソババアが老眼鏡をずらして俺の顔を見上げる。奥にはこわもてで、ガタイのいいババアの息子までいやがる。多分昨日アパートに来たのはこいつだろう。いい歳したおっさんだがパツと見、ヤクザ者にしか見えない。仏長顔して俺の事を見る。とにかく俺はバイトをクビになった事。これから働こうとしている仕事先の事。昨日は野宿した事など全てを話した。息子はうつむいて笑いをこらえ、ババアは半笑いで話を聞いている。ひとまず誠意は伝わったようでスペアキーを気軽に貸してくれた。嘘の言い訳などしなくて良かった。やっとアパートに帰れる。一件落着だ。

ババアが俺に「あなたは辛抱が足りないのよ。」と言っていたが俺の辛抱が足りないんじゃない！この世の中、辛抱できない事が多すぎるんじゃない！……決まった。かな？

五夜

いやいや、ようやく帰ってこれたよ。住む家があるっていいね。安堵感が中と外とじゃまるで違うよ。

えーと、鍵はどこかな？あつたあつた。やっぱり放り投げてあつたぜ。食い物の事で頭がいっぱいだつたからな。今回はしょうがない。

むにやむにや……さすがにまる一日寝てないと眠い、眠くて眠くてしょうがない。しかし、今寝てしまう訳にはいけない。なんといつても日払い2万がかかっているのだ。重い体をひきずって公衆電話へ向かう。募集終わってなければいいなあ……。

ピッポッパツ……ツーツーガチャン。　ピッポッパツ……ツーツーガチャン。

よし！話し中だ。という事はまだ募集してるってことだろ、よし！石にかじりついてでも、もとい公衆電話にかじりついてでもこの仕事はゲットしてやるぜ！俺は並々ならぬ気迫でプッシュボタンを押し続けた。

ピッポッパツ……ツーツーガチャン。　ピッポッパツ……ツーツーガチャン。
ピッポッパツ……ツーツーガチャン！　ピッポッパツ……ツーツーガチャン……！！

おいおい、いつになったら繋がるんだよ？もうかれこれ2時間近く公衆電話にへばりついているんだが……うわ、腕があが

らなくなってきたし、頭ももうろうつてきた。少し休憩にしよう。

昨夜から飲み続けている99コーラ1リットル入りを飲みながら考えた。別の公衆電話にしようか？大の大人が長時間公衆電話にへばりついて、女子高生じゃあるまいしみつともないぜ。と、いう事で、アパートからだいぶ離れた場所にある公衆電話に移動した。

ピッポツパツ・・・ツーツーガチャン。　ピッポツパツ・・・ツーツーガチャン。

相も変わらず繋がる気配がない。ううう疲れたよ。たのむから生活に困ってない奴は俺に仕事をゆずってくれい。老体にムチ打って電話をかけ続ける事、約1時間。

ルロロロロ・・・

おお！やった！ようやく繋がった！感動ものである。もうろうつていた頭がいつきに覚醒した。

「お電話ありがとうございます。こちらは・・・・・・・・。」

あれ・・・・・・・・？様子がおかしい・・・・・・・・テープだ・・・・・・
・な、何！募集は締め切っただと！ふざけるなよ、昨日から続く俺の苦勞がむくわれないじゃないか。どうしてくれるんだ！責任者出せ！

などと怒ってみてもしょうがない。電話が繋がった感動から一転、失意のどん底につき落とされた俺は気分を変える為にも他の会社に電話してみた。

あまり期待はできないと思ったコールセンターの会社にかけてみたら、なんと男性でも初心者でも大歓迎だそうだ。うおおおー！やったぜ！捨てる神あれば拾う神ありだ。

それによく考えてみるとこっちの方が金になる。時間は短かったり極端に長かったりするが全部で五日間働いて5万弱の稼ぎだ。ただし俺にこの仕事が務まるのかが疑問？コールセンターって女子の仕事ってイメージあるもんな。んん？女子の仕事かあ。ひょっとして婦女子パラダイスでハーレム状態なんじゃないの？モテすぎて俺の取り合いになっちゃったりして……………。

うつしっし……………。良からぬ妄想を胸に描き、今度こそ意気揚々と家路に着く。あつ99コーラ忘れてきちゃった。まあいいか、とつくに炭酸ぬけてるし、ぬるぬるでゲロマズだったもんな。

六夜

さて、泥のようになって寝たので活動を再開する事にしよう。

生意気にも短期の仕事のくせに面接はあるので、とりあえず履歴書を書いてみた。

いつつも思うのだが履歴書つてめんどくさいね。毎回、曖昧な記憶をたどって職歴を書かなくちゃいけないのに嘘の履歴は書くなと書いてある。転職を繰り返してる人間にそんな事言ったって、どだい無理な話だぜ。

履歴書は運良く残っていたが、写真がない。うゝん困った。電車代や食費の事を考えると写真代なんてどうやっても捻出できない。

いやあゝこれはどうしたものか……仕方ない。マツクに提出した履歴書を返してもらおう。死ぬほど恥ずかしいがそんな事言ってられないよ。

アポなしで取りに行くのは気恥ずかしいので、まず電話で聞いてみた。するとすんなり返すと言ってきた。だが、ちよつと困った事に郵送するというのだ。電話の相手が忙しそうに話すので俺もこねる事ができずに渋々了承したが面接は明日なんだよなあ。

なぜに郵送？直接取りにこさせた方が金もかからないし早いじゃねえか、取りにいくから切手代くれよ。うゝやっぱり直接のりこんだ方が良かったな。そしたら向こうだって早く追いつきたいから、さっさと履歴書返してくれたかもしれないし……。

おっ！ちよつとひらめいた。

だいぶ前に履歴書用の四分割写真を撮ったらフロッピーディスクと一緒に付いてきて、中に四分割写真の画像が保存されてたんだよな。だからそれ以降はそのフロッピーを写真屋に持って行って焼き増しさせて使ってたんだが、あの機械、普及するどころかなくなっちゃった。合掌。

まあ要はその応用で、携帯で自分の写真を撮る↓ミニSDカードに保存する↓写真屋に持って行って現像してもらう。これだ！これしかない！

早速、携帯のカメラで自分の顔を撮ってみる。「カシャーン！」うわ、シャッター音でけえ、うるさい。どれどれ、うへっ、気持ち悪い。なんか斜めになってるし、ブレてるし、暗いし、背景がモロ部屋の中だし、どうしようもねえ。

「カシャーン！」「カシャーン！」「カシャーン！」

背景は丸めてあったポスターを裏にして白背景を作った。手ブレも押さえた。一応、形にはなったのだが……やめておこう。

こんな下手くそな写真を貼るなんていくら鉄面皮な俺でも耐えられん。やめだやめだ。とりあえず写真は忘れてしまったという事にしておこう。

次の日、面接会場である高層ビルの立派な事に驚いた。ええ、俺みたいなのが出入りしていいのか？警備員も立ってるし、挙動不審な俺は警備員の目を盗むように面接会場に向かう。別にそんなコソコソする必要はないのだが習性ってやつだろうか？

会場にたどり着きひと安心。なんだ、結構いるじゃねえか俺みたいな貧乏人ファッションの皆様が。おまえらよく来たな。ここまで来るのは大変だったろう。俺もおまえらと同じ貧乏人だ、よろしくな。と、心の中で声をかけ、席に着く。

ひゃっほー！面接官はスーツ姿の綺麗なお姉さん。こんなお姉さんが面接官なら話がはずむ。はずまない訳がない。

一通り説明し終えて「何か質問はないですか？」とお姉さんが聞くので「スリーサイズは？」と危うく言いかけたが引つ込めた。

かわりに写真を貼ってない言い訳をしたら「分かりました。」と奥から何か取り出してきた。デジカメだ。それで記念写真感覚でパチリ、と一枚。んで終わり。ああああゝあんなに苦しい思いをしたのになんだったんだ。焦燥感と劣等感を抱き、俺は会場を後にした。

合否は即決もちろん採用。というか人数が足りていないとの事。そんなに人気ないのか？この仕事。一抹の不安をかかえながら家路に着く。

即決で良かった。後で携帯に連絡なんて言われたら止められてるから返答に困ってしまうものな。

会場には十数人しかいなかったが男は俺ただ一人。あの中には可愛い娘はいなかった。むしろ「女、捨ててます。」といった人ばかり。だが、婦女子パラダイスには違いない。嫌が応にも俺の期待はふくらむ。

うおおおおゝ唐突だが煙草が切れた。悩む、悩むぜ！今の俺に

とつて300円は大金。しかも煙草なんて「百害あつて一利なし」のしろもの。だが吸いたい、吸いたくてしょうがない。

うゝん。とりあえずシケモクでも吸っておくか。根元まで吸う習慣がなくて良かったぜ。

七夜

今日からコールセンターの研修。全部で五日間の日程の内、研修が三日で本番が二日。本チャンよりトレーニングの方が長いって悠長な会社だね。

面接の時もそうしたのだが、できるだけ金を使いたくない俺は電車代を少しでも減らす努力をしている。

・・・キセルでもしてるんだろって？何をバカな、キセルなんて怖くてできない。今はスイカの時代だからな。そう簡単にキセルできない仕組みになっているに違いないよ、きっと。

そうではなく、俺のアパートからバイト先までは地下鉄を使って山手線に乗り継ぎしなくてはならないのだが、往復の地下鉄料金を浮かせる為に俺は自慢の愛車で直接、山手線の駅まで走って行く事になっているのだ。

紹介が遅れたが俺の愛車の名前は「オリタタ君1号」名前の通り、折りたたみ自転車だ。

この「オリタタ君1号」はタイヤの口径が小さいので普通のチャリよりこぐのに力がある。加えて俺の住んでいる土地が急勾配の坂だらけなので毎日ヒイヒイ言いながらチャリをこいでいる始末。

こんなチャリ買っくんじゃなかったな。なんとなく折りたたみ自転車ってどんなかなあ？なんか便利そうだなって買ってはみたものの、折りたたむ必要性がないので全く意味がない。これって車に乗せて使う人の物なんだね。今さらながら大失敗しちゃったよ。

そんな「オリタタ君1号」で走る事、約60分。やっとこさ山手線の駅について、適当な場所にチャリをくくりつける。駐輪場なんかには停められない。金がかかるのだ。撤去されないように私有地に停める。これ、基本です。

そうやって研修一日目にこぎつけたのだが、俺の期待していた婦女子パラダイスは幻想にすぎなかった。

オバちゃん率80%、ブサイク率90%、ミニス力率0%のどちらかというと婦熟女パラダイス。若いお姉ちゃんもいるにはいるが圧倒的にオバちゃんが多い。俺の両隣の席も当然のごとくオバちゃんが座っている。

うつつ……ガツカリだ。心底ガツカリだ。ブサイクでもいい、せめて若い娘が隣に座ってくれたらどんなに良かったろう。

とはいえ女性にはとても愛想のいい俺は隣のオバちゃんの質問に親切丁寧に答える。パソコンの使い方があまり分からないらしく、何度も何度も聞いてくる。当然だろうな、パソコンなんて触った事ないくらいの年頃だ。

その内に俺のシマを担当しているリーダーがやって来て、そのオバちゃんにつきつきりになった。このリーダーは若い、ものスゴク若い。おそらく二十歳、もしくは十代ではないだろうか？顔は並みだが体がスゴイ。ダイナマイトボディってやつだ。

他のリーダーもしくはスーパーバイザーと呼ばれる人間は、わりかし清楚な格好をしているのにもかかわらず、このリーダーだけはローライズ気味のパンツに乳がこぼれそうなシャツを着ている。

おお！黒ブラ！そのリーダーが落し物を拾う際にしゃがんだ為、見えてしまった。決して覗き込んだ訳ではない。しかし子供のくせに生意気だ。黒なんて若いうちから着るか？何？普通だって。あっそう。

このリーダー、ブラも生意気だが態度も生意気だ。俺がウトウトしていたら耳元で「分かりますか〜」ときやがった。ドキツとするじゃねえか。そしてなんか知らんが意識しちまうじゃねえか。

…………男ってやつは単純にできてんなあ。己のストライクゾーンからかなり外れていても、そばにいたり触れられたりすればすぐに意識してしまう。悲しい性だな、こりゃ。

という事で今日は巨乳リーダーとパソコン初心者のオバちゃんのおかげで退屈はしなかった。仕事の方はというと今日の説明を聞いた限りでは単に商品注文の受付をすればいいだけの話。楽勝だろ、こんなの。なぜ人気がないのかさっぱり分からない。

いやあ仕事自体は簡単だと思うが、俺って自分で思うより活舌が悪かった。「ご注文を承らせて頂きます。」このフレーズがなかなか言えない。

どうしても、つかえてしまつて「ご注文をウケタマワレルレロ……………」などとなつてしまう。「うけたまわります。」ならば問題はないのだが「うけたまわらせて」なんて言いにくくてしょうがない。他の奴らがスラスラ言えてるのが不思議だ。

帰り道。「オリタタ君1号」をこぎながら練習してみた。

「ウケタマワラレツ!」「ウケツ!」「ウケタマー!」「ウケタツ?」

わわ、やべえ。通行人がわんさかいる中で何言ってるんだ。思いっきり不審者だぜ。赤っ恥をかいた俺は力の限りペダルをこぎ、全速力でその場から逃げだした。

くそう、失敗したし、腹減ったな、もう!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5408e/>

すべりこみアウト！

2011年1月2日14時12分発行